

● 農林業を軸にした自然資源の持続的な管理・利用

1 金蔵地区（石川県輪島市）

棚田を中心とする集落の景観こそ地域の財産との共通認識のもと、非農家を含む集落全体で棚田営農に取り組み、歴史・文化・伝説などを活用した集落整備、減農薬やはぎ干しにより付加価値を高めた米、酒米など特産品づくりを進める。金沢大学と共同で「金蔵自然文化研究所」を設立して専門分野の調査を実施し、都市農村交流のツアーなどに活かしている。これらを通じて集まったボランティアの手助けで共有林の枝打ち作業や草刈り等の環境保全活動も行っている。

写真上：三方を山に囲まれた集落に広がる棚田

写真下：寺の境内や周辺の棚田に2万本のローソクが燈される万灯会

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	景観・文化	
中山間地	連携組織	農林業等	動植物	景観・文化	環境全体



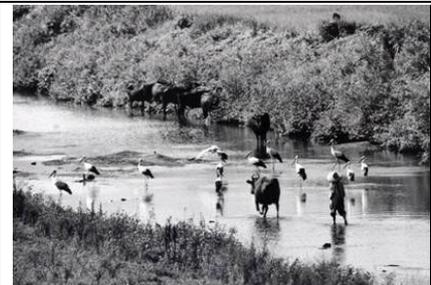
2 豊岡盆地・円山川（兵庫県豊岡市）

大型の鳥・コウノトリの野生復帰に取り組む豊岡市では、生息に必要な餌生物を増やすため、生きものを育てる稲作技術「コウノトリ育む農法」の拡大や、水田と水路をつなぐ「魚道」の設置、ビオトープ水田の創出などの農業施策を関係機関等連携のもとで進めている。また、環境行動と経済活動の共鳴をめざす「豊岡市環境経済戦略」を策定し、生物多様性を守る健全な里山の保全や、間伐と伐採木の有効利用といった林業施策についても、経済性を考慮しながら展開している。

写真上：コウノトリと人が共に暮らしていた昭和30年代の様子

写真下：人工飼育と放鳥によって、かつての風景が戻りつつある

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物		
都市周辺	連携組織	農林業等	動植物		環境全体



提供：富士工芸社（有）



3 江里山の棚田（佐賀県小城市）

中山間地域等直接支払交付金を活用し、農業用水路や農道の除草や修繕などの維持管理のほか、遊休農地等の発生防止にも努めている。また、特色ある米づくりとして、棚田の地形や水源に近いきれいな水を利用し「佐賀県特別栽培農産物」の認定を受けた水稻の生産に取り組んでいる。秋には畦畔の一斉除草作業を行い、彼岸花まつりを開催するほか、「おばあちゃんの食べもの伝承塾」など伝統食の継承にも力を入れている。

写真上：江里山の棚田と周辺の間々

写真下：秋には彼岸花が田の畦道の曲線を鮮やかに描き出す

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化		
都市周辺	地元集落等	農林業等	景観・文化		田・畑



4 石部の棚田（静岡県松崎町）

地元農業者が集落の住民やボランティアの協力を得て棚田の開墾、復田作業を行い、美しい農村風景を復元した。棚田オーナー制度により、首都圏など県外からの来訪者も多く、さらに棚田米焼酎、黒米うどん、黒米パンなどの商品開発にも取り組む。大学生のボランティアによる畦切りや草刈りなど日常管理への労務提供、焼酎販売事業者による売上一部寄付などの「一社一村しずおか運動」（企業 CSR）など、協働の輪も広がっている。

写真上：広がる棚田の向こうには駿河湾を望むことができる
写真下：親子連れなど多くの人で賑わう棚田での稲刈り

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化		
中山間地	地元集落等	農林業等	景観・文化		田・畑



5 北庄の棚田（岡山県久米南町）

高標高の場所に棚田が広がり、ため池も多い地域で、ため池・逆サイフォンの原理を利用した農業用水整備等の伝統的技術・景観が今日まで維持されている。棚田天然米産地化を目指す北庄中央棚田天然米生産組合では、3 アール以上の棚田での栽培と有機低農薬、天日干しを条件としたコシヒカリの栽培に取り組む、JAを通して「今摺（いまずり）米」として限定販売している。都市住民や地元小学校児童等との交流を通じ、棚田の農作業に金銭面、労力面で支援を得ている。

写真上：何層にも重なる北庄の棚田風景
写真下：地元の小学生が田植え・稲刈りを体験

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化		
中山間地	地元集落等	農林業等	景観・文化		田・畑



6 薩摩川内地域の竹林（鹿児島県薩摩川内市）

この地域周辺は、製紙工場～チップ工場～地元筒栽培農家及び竹を総合的に利用する竹バット、竹炭、竹粉末などの各製造業者が集積し、竹を軸にした産業連携が形成されている。地元農家がタケノコ収穫後の竹林の手入れなどの際に伐られた竹材を竹チップ業者に搬入し、業者が製紙用チップを生産する。製紙業者は、年間 7,000t（生）の竹チップを購入している。NPO による竹林整備の受託、竹林オーナー制度、竹材加工製品の開発・販売なども行われている。

写真上：タケノコ栽培農家の竹林
写真下：よく手入れされた竹林

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等			
中山間地	NPO 企業等	農林業等			樹林地



● 里地里山がもつ多面的価値の保全と発揮＜野生動植物やその生息地の保全・管理＞

<h3>7 ハサンベツ里山（北海道栗山町）</h3>													
<p>町教育委員会が中心となり、ハサンベツ川では、魚類など水生動物の産卵対象となる河床の復元と保全管理を進めている。草原もバッタの生息環境に配慮した草刈りを行うことで、猛禽類の餌場として使われ、野ネズミ等の大発生を制御する結果となっている。後継者不足で耕作放棄された跡地では、体験農園の一環として蕎麦を耕作し、山間部の景観を再生した。その蕎麦の花は多くの昆虫類の蜜の摂取場所として広く長期間利用され、豊かな生態系の確保にも繋がっている。</p> <p>写真上：小さな谷地にあるハサンベツ地区の中心部分 写真下：町民参加によるハサンベツ川の石組み作業</p> <table border="1" data-bbox="414 728 973 828"> <thead> <tr> <th>地域区分</th> <th>取組主体</th> <th colspan="2">主な取組目的</th> <th>取組対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市 周辺</td> <td>NPO 企業等</td> <td>動植物</td> <td>環境教 育等</td> <td>環境 全体</td> </tr> </tbody> </table>	地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象	都市 周辺	NPO 企業等	動植物	環境教 育等	環境 全体			
地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象									
都市 周辺	NPO 企業等	動植物	環境教 育等	環境 全体									
<h3>8 久保川イーハトーブ（岩手県一関市）</h3>													
<p>伝統的な里山管理や農業形態によって多様な環境が維持され、侵略的外来種の影響も他地域と比べて少ないため、そのような環境に依存した里山の生物群集がよく残存している(環境省レッドリスト掲載種 21 種ほか)。寺院所有地をコアエリアに、周辺一帯の間伐や林床管理、ため池管理、水田跡を利用した湿地再生などが行われており、寺院が主導し、地元集落、大学、行政が後押ししている。環境学習や間伐材の炭焼き・水質改善への活用などは、活動団体が協力している。</p> <p>写真上：棚田と背後に広がる雑木林 写真下：農薬や肥料が流入しない棚田上部のため池には水生生物が多い</p> <table border="1" data-bbox="414 1377 973 1478"> <thead> <tr> <th>地域区分</th> <th>取組主体</th> <th colspan="2">主な取組目的</th> <th>取組対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中山間 地</td> <td>NPO 企業等</td> <td>動植物</td> <td>環境教 育等</td> <td>環境 全体</td> </tr> </tbody> </table>	地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象	中山間 地	NPO 企業等	動植物	環境教 育等	環境 全体			
地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象									
中山間 地	NPO 企業等	動植物	環境教 育等	環境 全体									
<h3>9 宍塚大池周辺（茨城県土浦市）</h3>													
<p>「宍塚（ししづか）の自然と歴史の会」が中心となり、地元農家の支援のもと、複数の企業、複数の大学、研究機関、地元小・中・学校等が関わり、土浦市、茨城県等の協力を得ながら、都市近郊の里山「宍塚の里山」を全体として保全、利用する取組を行っている。生物多様性を目指した森づくり、サシバなどを保全するための田んぼの耕作、フクロウ、カヤネズミ等の生息地を保全するための休耕地の草刈り、外来魚の除去、池の野生ハスの刈り取り作業による水質改善などを実施している。</p> <p>写真上：周囲の二次林を水源とする宍塚大池 写真下：半溜めと呼ばれる谷津田</p> <table border="1" data-bbox="414 2004 973 2105"> <thead> <tr> <th>地域区分</th> <th>取組主体</th> <th colspan="3">主な取組目的</th> <th>取組対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都市 周辺</td> <td>NPO 企業等</td> <td>動植物</td> <td>景観・ 文化</td> <td>環境教 育等</td> <td>環境 全体</td> </tr> </tbody> </table>	地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象	都市 周辺	NPO 企業等	動植物	景観・ 文化	環境教 育等	環境 全体	
地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象								
都市 周辺	NPO 企業等	動植物	景観・ 文化	環境教 育等	環境 全体								

10 白山・坂口地区（福井県越前市）

里山と浅いため池が点在し、アベサンショウウオなど 30 種を超える環境省レッドリスト掲載種を始め多様な動植物が生息している。地元農家や保護活動団体、専門家、行政機関が「水辺と生き物を守る農家と市民の会」を結成し、連携して環境保全型農業、農産物の白山ブランドづくり、都市農村交流事業を進めるとともに、子どもたちを対象としたエコキャンプ、自然観察会などの活動や、ビオトープ整備、外来種駆除などの活動を行っている。ふるさと学習など、地区住民の郷土愛と信頼の輪を深める活動も盛んである。

写真上：白山地区の集落と里山

写真下：住民による生きもの調査

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	環境教育等	
中山間地	連携組織	農林業等	動植物	環境教育等	環境全体



11 河辺いきものの森（滋賀県東近江市）

かつての河川氾濫原にできた森を、里山保全・環境学習を目的に市が「河辺いきものの森」として整備した。レッドリスト掲載種など特定の動植物に焦点を当てず、広く多様な生き物が生息できる里山づくりを目指している。落葉広葉樹二次林の高林管理及び低林管理、竹林の密度調整を行うほか、遷移にまかせる区域も設定している。ネイチャーセンターに市の担当部局を置き、市の業務を行う前から活動していた NPO 団体と協働で、日常管理や来訪者への対応を行っている。

写真上：高林管理区域（落ち葉かきのための竹柵修復作業風景）

写真下：低林管理区域

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市周辺	NPO 企業等	動植物	環境教育等		樹林地



12 世羅台地周辺（広島県三原市）

絶滅危惧種のチョウの生息地（湿地）を再生・保全し、連続的なネットワークを構築することにより、トンボや野草などさまざまな生き物を含む湿地の生態系保全を目指す。地権者と管理・活動内容を明記した覚書を交わし、地権者の協力のもと活動を進める。対象地が孤立していると、採集圧や台風などの異変によって絶滅が危ぶまれるため、近接した生息地を複数確保し、相互に供給・回復ができるように配慮する。地元住民を主体とした一般の参加者を募り、観察会や草刈り、倒木除去、水路復元などを行っている。

写真：湿地として再生した休耕田での観察会

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
中山間地	NPO 企業等	動植物	環境教育等		ため池湿地



13 小佐渡東部地区（新潟県佐渡市）

トキの野生復帰を目指し 30 団体が連絡協議会を結成した。トキの餌生物は身近な水辺に棲み水田は重要な餌場の一つであることから、生態系の復元と営農との両立を目指し、冬季湛水水田、減農薬化学肥料栽培、落水期も水が残る「江」の造成などを実施している。併せて河川・水路と農地の連続性確保のための水路等改修、ねぐら・営巣木保全のための森林整備などを行うとともに、人とトキの共生に向けた理解促進などの社会環境整備に取り組む。平成 20 年度からは JA の認証による「朱鷺と暮らす郷米」をブランド化した。

写真上：企業によるトキの餌場づくり活動（耕作放棄地の再生）

写真下：ビオトープとして再生した冬の棚田（看板は市の助成を示す）



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物		
都市 周辺	連携 組織				環境 全体

14 いなみの台地（兵庫県加古川市ほか）

明石市、加古川市、稲美市、高砂市、播磨町にまたがって散在するため池の保全活動を「いなみ野ため池ミュージアム」としてネットワーク化し、水辺環境の保全・再生（水質保全、希少動植物保全、外来種除去、ため池回廊ツーリズム推進など）、生物多様性保全推進支援（かいぼり、ジャコ取り、池干しなど）、人材発掘・養成などに取り組む。とくに水辺での生物観察会を通じて、野生動植物が身近な存在であり、地域にとってかけがえのないものであることへの認識や、生息空間保全の必要性を強く訴えている。

写真上：ため池の生物観察会の様子

写真下：窪地に堤防を築いて作られたため池（皿池）のかいぼり（底さらえ）



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市 周辺	連携 組織				ため池 湿地

15 伊尾・小谷地区（広島県世羅町）

水田所有者・生産者が集落法人を設立し、希少種のダルマガエル保護のため減農薬やカエルの生活サイクルに同調した稲作（品種切替を含む）に取り組む。小学校ではギフチョウが生息できる里山の復元を目指し、草刈り等を実施している。いずれも地元主導で行われ、希少種が生息できる環境そのものが地域の財産との認識から、積極的に自主的活動を展開しているが、地域内での連携に加え、全国から労力提供や専門的助言を得るなど保護活動には広がりが出ている。

写真上：ダルマガエルの生息に配慮した水田

写真下：水田横につくられたビオトープ



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	環境教育等	
中山間 地	地元集 落等				田・畑

16 遠州南部地区（静岡県掛川市、袋井市、磐田市）

地域の歴史、生態系、農業、伝統工芸などの地域の専門家が集まった団体が協働して活動している。生き物観察会や夜間大学、農業体験など多様な体験プログラム、地元料理法や地域農産物の提供、農業水利施設の建造技術の伝承などを通じて農業の大切さや地域の農村文化を伝え、都市と農村の交流を積極的に推進することにより、里地里山の景観や地域資源の保全、その重要性のPRに取り組んでいる。

写真上：千町歩の広大な田園地帯「トウモン」
 （語源は稲面とも田面とも言われる）

写真下：活動拠点施設でのイベント
 （子供たちによる歴史的農業水利施設の物語のミュージカル）

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
都市 周辺	NPO 企業等	景観・ 文化	環境教 育等	田・畑



17 上世屋地区（京都府宮津市）

里山風景の保全、地域の活性化を目的に、NPO、活動団体、大学等多様な主体が地域住民と連携しながら、棚田の再生、天然の藤づるを材料にした藤布を織る技術の継承、世屋（せや）周辺の里山の動植物の保全、世屋に伝わる衣・食・住の文化を伝える人材の育成等を目指し、各種の講座やイベントを実施している。こうした里山文化を伝える活動の更なる展開を図るため、当地区の伝統的な建築様式であるササ葺き家屋の復元に NPO や活動団体、大学、地域住民がコンソーシアムの形態で取り組み、4年半の歳月をかけ活動拠点を整備した。

写真上：棚田での田植え風景（「合力の会」による）
 写真下：ブナ林散策（「宮津市エコツーリズム推進協議会」による）

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
中山間 地	NPO 企業等	景観・ 文化	環境教 育等	環境 全体



18 稲渚棚田（奈良県明日香村）

棚田オーナー制度に加え、棚田での米づくりを通して、都市と農村の交流や、人と自然の共生、また新しい文化の発信を目指す、「棚田ルネッサンス」と名付けた取組を展開している。「田んぼ」・「トラスト」・「はたけ」の各コースを設け、「田んぼ」・「トラスト」コースの場合、設定された活動日に農作業を行う。米づくりだけでなく、周辺の草刈りやかかしづくりなど棚田の景観を守るためのイベントも多い。長年中止していた地元の祭りが復活するなど、地域にとっても良い効果が生まれている。

写真上：「神奈備の郷（かんなびのさと）」の棚田
 写真下：棚田オーナーによる田植え作業

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
都市 周辺	地元集 落等	農林業 等	景観・ 文化	田・畑



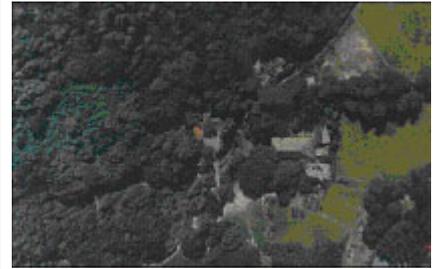
19 富士権現山山麓（茨城県桜川市）

歴史的鎮守の森を守るため「千年の森の会」を結成し、周辺の里地里山の保全に取り組んでいる。谷津田を保全するために森の学校、田んぼの学校を開き、休耕田に古代米を作り、有機無農薬栽培やあひる農法を行う。鎮守の森とその周辺の保護のため、四季を通して森林整備を行い、間伐や枝打ち、下刈りで得られるバイオマスをきのこ栽培の原木として、その他たい肥作りや炭焼き（伏せ焼き）の炭材に利用し市民に還元する。これらの活動を通して人と自然のすべてのいのちを大切にすることを育て、古来から伝わる稲作文化を見直し、生活循環を考える活動を行っている。

写真上：鎮守の森とその周辺の里地

写真下：県「元気な森林づくり活動支援事業」による下刈り（シノ刈り）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
中山間地	NPO 企業等	景観・文化	環境教育等		樹林地



20 谷田・武西の谷津（千葉県白井市、印西市）

ニュータウンの玄関口に位置しながら、草原（江戸時代の印西牧（いんざいまき）の一部）や湧水を含み、豊かな景観と動植物生息環境を有する。この一帯を、北総地域の自然との共生を考えるモデル地区と位置づけ、「北総里山クラブ」（NPO16 団体の連合体）を中心に、里山保全・活用に向けた「千葉の里山・森づくりプロジェクト」の事業を進めている。谷田の湧水に水神を祀るなど文化遺産も豊富である。

写真上：草原の風景（印西市武西地区）

写真下：湧水により形成された小川（白井市谷田地区）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市周辺	連携組織	景観・文化			環境全体



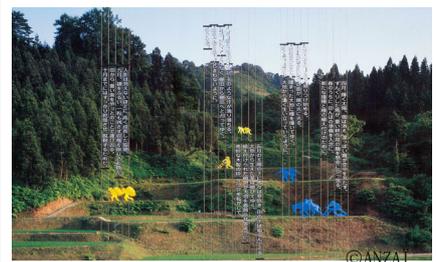
21 越後妻有地域（新潟県十日町市、津南町）

世界の国と地域からアーティストが参加する「大地の芸術祭越後妻有（えちごつまり）アートトリエンナーレ」が開催され、棚田や農作業、地域の生活文化などをテーマにしたアート作品が里地里山の中に出現する。参加アーティストは設置場所の特性を活かしたアート作品を制作、住民ボランティアや地域外サポーターは作品制作に協力する仕組みが作られ、地域内外の人々が里山景観を再認識するきっかけとなっている。また、このプロジェクトによって、地域の民家、学校、棚田、里山、集落等が都市と農民の交流と協働の場となって活性化している。

写真上：棚田風景と農作業を表現したイリヤ&エミリア・カバコフの「棚田」

写真下：棚田を守る竜神をイメージした國安孝昌の「棚守る竜神の塔」

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
中山間地	連携組織	景観・文化			環境全体



● 社会的な認識の向上・次世代の教育の推進

22 にいつ丘陵（新潟県新潟市）

市有林の森林整備を行うことにより、山林所有者の里山再生意識の向上を図ることを目的に、市主催で市民参加により森林の手入れや下草刈りを行う「里山づくりプロジェクト」を展開している。また、里山を活動エリアとしている市民団体やNPO、新潟市が、「にいつ丘陵利活用活性化協議会」を構成しており、市は構成団体が主催する取組への支援を行うが、当プロジェクトや「森林ハイキング」において、各構成団体は講師やガイドなどの人的協力を行っている。

写真上：里山エリアの遠景

写真下：協議会のメンバー団体が森林整備を行った場所で説明を聞く

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	行政	環境教育等			樹林地



23 朝倉南地区（愛媛県今治市）

古墳の多い里地里山として有名な地区で、公民館主事が中心となり、地域住民、NPO、大学、行政、地元小中学校、博物館などが協働して郷土の絶滅が心配される生き物を詳細に調査し、保護対策を実施している。またこうした希少性のある生物を育ててきた地域の歴史、文化、環境保護意識を学び、すべての生物を保護していく生物多様性の観点から、持続可能な社会について子供たちに考えさせていこうとする取組が進んでいる。

写真上：サギソウなどを含む多様な湿地植物が生育するやや乾いた湿地

写真下：オグラノフサモ、ジュンサイなどが生育する貧栄養のため池

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	行政	動植物	環境教育等		環境全体



24 ライオン山梨の森（山梨県山梨市）

企業が地元森林組合、市と協働で整備を行う森林整備協定を締結し、命名権により「ライオン山梨の森」と名付けた。企業からの支援費用を使い伐採・搬出・植栽等の森林整備を実施している。また、社員による森林ボランティア体験活動、社員と地元小学生との植林作業、企業本社のある墨田区民による森林整備体験などを行うが、その際、山梨県森林総合研究所、自然教育研究センター、地元森林組合が講師を派遣する。ほうとうづくりや野菜収穫など地元との交流プログラムも行っている。

写真上：「ライオン山梨の森」入口付近

写真下：間伐体験等の中心となる中腹の広場

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	NPO 企業等	農林業等	環境教育等		樹林地



25 トヨタの森（愛知県豊田市）

当企業では、敷地内の森を整備したことをきっかけに、生物や自然環境を調査するとともに、自然体験の場として地域に開放し、市民の手も借りながら里山再生に取り組んでいる。湿生園（かつての耕作放棄水田）では、ヨシ、カササゲなど強繁茂種の刈り取り、ため池跡後背地は貧栄養湿地化により希少植物の生育環境を保全し、シデコブシの谷では周辺伐開、更新試験、フクロウの谷では棲み家、餌場、空間の整備などを実施している。また、基礎資料とするため、エコモニタリング(自然環境調査)を継続している。

写真上：棚田跡地を利用した湿性生物観察園

写真下：中高木層を残すよう整備した林とフィールドサイン

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市周辺	NPO 企業等				樹林地



26 漆の里山（鹿児島県蒲生町）

竹林、照葉樹林、人工林等多様な森林の盆地状の中央部分の平地に田畑がある。地元農家は有機農業を推進しながら、放棄耕作地の活用など、放棄地を減らす努力をし、地区の小学校では児童とともに鳥類調査や環境教育に積極的な参加・取組を行っている。NPOは、自然観察会、一般に対しての環境調査学習会、里山自然学校、農業体験として田植え～稲刈り、収穫祭等をコーディネートする。地元農家や小学校を巻き込んだ生態系調査には専門家の協力も得ている。

写真上：集落の中央に広がる田畑で遊ぶ子どもたち

写真下：ホタルが生育する小川と田

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	環境教育等		
中山間地	NPO 企業等				田・畑



27 桜宮自然公園（千葉県多古町）

産廃残土埋立候補地となったことをきっかけに、水田の地権者が協議し、荒廃した谷津田を里山公園として整備し後世に伝えることに決めた。「桜宮自然公園をつくる会」を組織し、地域住民も下草刈りやビオトープ整備などにボランティアで参加して公園を整備した(町の里山景観形成事業の一つとして)。県・町・研究者等も積極的に連携、支援し、整備後は地権者、会員による定期管理及び研修受入れ等で維持・管理を行っている。

写真上：公園でザリガニ釣りをする小学生

写真下：公園から見る秋の里山

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	景観・文化	環境教育等	
中山間地	地元集落等				田・畑



28 春蘭の里（石川県能登町）

山菜やきのこなど恵み豊かな山、川、農地と生活の営みに育まれた二次的自然が凝縮されている地域で、里山の象徴と位置づけているシュンランが自生している。地域の有志で結成された「春蘭（しゅんらん）の里実行委員会」が中心となってグリーンツーリズムを推進し、都市部の小学校の体験旅行の受け入れや、農家ごとの農村生活体験プランを提供している。里山を適切に管理することでキノコ山として保全し、それらのキノコや山菜、伝統文化など里山の地域資源を活用した地域おこしに結び付けている。

写真上：黒瓦と漆喰が美しい農村住宅と水田。農家民宿も人気がある

写真下：集落を流れる川で遊ぶ子どもたち

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
中山間地	連携組織	農林業等	景観・文化	環境教育等	環境全体



29 立神峡・里地公園（熊本県氷川町）

住民参加のまちづくりの中で立神（たてがみ）地区の荒廃林地を里山として再生しようとする動きが生まれ、町が一带の照葉樹林を取得して公園整備した。これに合わせ公園管理組合主催で「里山暮らしの学校」を定期的実施し、町の呼びかけでできた活動団体「里山クラブどんごろす」や住民が自主的な活動として、これに協力し、引き継いだ。里山づくりと伝統、知恵の継承を目的とするもので、ボランティアによる竹林の手入れ、ツタ切り、遊歩道整備、植樹等の管理、公園をフィールドとした観察会、自然体験等を実施している。

写真上：「森のようちえん」の田植え風景

写真下：稲刈り

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
中山間地	NPO 企業等	景観・文化	環境教育等	樹林地



● 自然資源の管理・利用への多様な主体の参加促進

30 細越ホタルの里（青森県青森市）

町在住の全 220 世帯が「細越（ほそごえ）ホタルの里の会」を構成し、農事振興会、小学校、消防団等各団体が協働し、北限のゲンジボタルやヘイケボタルの生育環境保全を軸に、自然再生に取り組む。内容は土砂の浚渫・草刈り・土留め・清掃などによる水田・水路・ため池の保全や、ゲンジボタルの飼育と採卵から幼虫飼育・放流による個体数の確保など。さらに、自然観察会や生息状況調査を行うほか、毎年7月初旬に開催する「細越ホタルまつり」も定着し、三日間で 5000 人が来訪し、農産物直売所なども盛況である。

写真上：ゲンジボタル生息地の休耕田の清掃をする子どもたち

写真下：野菜などを買求める見学者で賑わう「細越ホタルまつり」

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市 周辺	地元集 落等		環境教 育等		田・畑



31 鹿島台シナイモツゴの郷（宮城県大崎市）

絶滅危惧種であるシナイモツゴを守るため、地域住民、子供たちも参加してため池を干し、天敵のブラックバスを駆除する。保護増殖活動のための「シナイモツゴ里親制度」では、定期的に里親の元を巡回し、成長の確認・観察会を行うほか、総合学習会を開催する。さらに、地域農業者が「郷の米づくり手の会」を組織して、水環境のバロメーターでもあるシナイモツゴが生息するため池の水を利用した安心・安全の環境保全米「シナイモツゴ郷の米」の栽培と産地直送・産地販売の農家経営戦略を展開している。

写真上：集落の景観

写真下：シナイモツゴが生息する水路

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業 等	動植物	環境教 育等	
中山間 地	連携 組織		動植物	環境教 育等	ため池 湿地



32 東山の森（愛知県名古屋市）

「なごや東山の森」は、名古屋市の東部丘陵にある東山公園と平和公園を合わせた約 410ha の南北に樹林が大きく連なる森であり、丘陵の大半が樹林で覆われ、この地方特有の湿地が点在し、多様な動植物が生息している。「なごや東山の森づくりの会」は、市民・企業・行政の協働により、市街地に残された“都市の森”を市民共有の貴重な財産として守り育てていこうと活動している。

写真上：東山の森の全景

写真下：「なごや東山の森づくりの会」の活動の様子

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	景観・ 文化	環境教 育等	
大都市 近郊	連携 組織	動植物	景観・ 文化	環境教 育等	樹林地



33 四万十川流域（高知県四万十町）

河川を軸に農地・集落が立地し、周辺に人工林が広がる地域である。一次産業振興を目指す民間企業「株式会社四万十ドラマ」を中心に、自然に負担をかけないことを理念として、古くから培われてきた農林漁業の資源・人材の発掘による「天然のモノづくり」や自然体験事業（「四万十また旅プロジェクト」）などを進め、地域の生業の再生を目指している。「四万十ドラマ」は、外部の人や組織と地元の人や組織を結びつけるコーディネーター役を担う。

写真：町を流れる四万十川



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	環境教育等		
中山間地	地元集落等				環境全体

34 突哨山（北海道旭川市）

ゴルフ場建設に反対する活動グループが自然観察会や環境教育活動が続けていた場所で、2000年に旭川市と比布町が土地を買い上げ、公有地化された。国内最大級のカタクリ群落を有するが、カタクリシーズン（4月下旬～5月上旬）だけ賑わうこの地をいかに活用するかを考える目的で、「突哨山（とっしょうざん）運営協議会」が発足し、協議の結果、指定管理者制度を活用して生態系調査、環境教育、市民への情報発信等を地元住民、NPOと連携して行う新しいシステムが動き出した。

写真：日本最大規模といわれているカタクリの群落



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市周辺	NPO企業等				樹林地

35 上ノ原入会の森（群馬県みなかみ町）

萱刈り場として集落で管理していたが、葎き替える家もなくなり、放置されたまま森林化が進んでいた草地を、下流域の市民団体「森林塾青水」を中心に、萱場として再生した。地元住民の指導の下、火入れ（野焼き）・侵入木の伐採・萱刈りを行い、水辺、湿潤地、林縁（ミズナラ林が隣接）などと一体となった里山としての原風景が維持されている。都市住民側は、これを地域全体の中の景観・生態系と位置づけ、地域の人との関係を見失わずに、「現代版入会」の仕組みづくりを目指しながらかわり続けている。

写真上：背丈以上に伸びた刈り取り前の萱

写真下：残雪を防火帯にした野焼き風景



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		景観・文化			
奥山周辺	NPO企業等				草地

36 船橋市北部地区（千葉県船橋市）

NPO「こびすくらぶ」が、市内北部の約96haの森林について、森林所有者との委託契約に基づいて森林施業計画を立て毎年計画に沿った森林整備を進めている。森林所有者に管理委託料を負担してもらい、造林補助事業の活用により整備するもので、所有と管理の分業化、所有者に対しては相続税評価額の減額などのメリットがある。持続的な経営を行うため、クヌギ、コナラを中心としたシイタケ原木や暖炉用薪の生産及び販売経路の確保などのシステムを検討している。

写真：森林施業計画に基づく整備の対象森林

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	NPO 企業等	農林業 等			樹林地



37 横沢入里山保全地域（東京都あきる野市）

都条例に基づく48.6haの「横沢入里山保全地域」に指定され、地域住民・都民ボランティア・行政等からなる協議会を組織している。複数のボランティア団体が湿地や樹林地の保全、生物調査等の活動を行うほか、都事業として復元された水田で地域住民主体のNPOが稲作・水田管理を受託するとともに小学生の稲作体験指導等を行う。また企業・NPO・都の協定に基づく「東京グリーンシップ・アクション」で、企業CSRの一環として、稲作体験、草刈り、自然観察等を行う。地域内には17種を数える環境省レッドリスト掲載種などが生息する。

写真上：再生した水田で農業体験をする小学生

写真下：水生生物の生息地となっている谷戸の放棄水田

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
大都市 近郊	連携 組織	動植物	景観・ 文化	環境教 育等	環境 全体

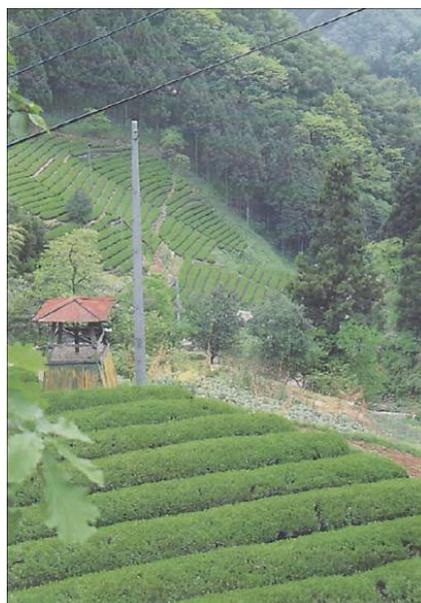


38 藤野町佐野川の里山（神奈川県相模原市）

山間に拓かれた急傾斜の里だが、地元主体で裏山の手入れ、荒廃農地の復元・小麦等の栽培、茶業振興に取り組みながら、都市住民との交流事業を進めている。都心から1時間圏内にある立地条件を活かし旅行会社が日帰りツアー商品化、間伐竹によるMYはしづくり体験、うどん打ちなどを提供する。横浜国大との連携による土蔵修復などの「古民家再生プロジェクト」や、間伐材を活用した炭オブジェなどの商品開発にも取り組む。

写真：谷川から石を運び上げ、石垣を築いてつくられた山の斜面の茶畑

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	地元集 落等	農林業 等	景観・ 文化		環境 全体



39 秦野地域の里地里山（神奈川県秦野市）

地元住民による里山の枝打ち、間伐、下草刈り、水田・畑の耕作などが行われているが、ここを NPO などが環境教育や自然体験、農林業体験などの場として活用し、生き物さがし、ビオトープ整備、炭焼き、田植え・稲刈り、サツマイモや落花生の作付け・収穫などを実施する。里山文化継承のため、地元学のワークショップ、地元料理レシピづくり、子どもの昔遊び体験なども行っている。市では、農道や里山散策路、里山案内看板などを整備するとともに、一部を「生き物の里」として指定・管理することにより、希少な動植物の生息環境を保全している。

写真上：名古屋地区の棚田景観

写真下：里山体験教室で講師から間伐方法の指導を受ける

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	NPO 企業等	動植物	景観・ 文化	環境教 育等	環境 全体



40 朽木針畑の里山（滋賀県高島市）

行政（市）が地元へ委託料を出して昔ながらの森林施業を実施してもらうとともに、企業とパートナーシップ協定を結んで CSR 活動の一環として里山の手入れや体験学習を社員が行う。また NPO 等の人材や知識を活用して、地元住民だけではむずかしい森林体験学校などのイベントや都市部への情報発信を行う（里山活用による山村再生モデル事業）。

写真上：集落と背後の山々

写真下：雪化粧した集落

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
中山間 地	地元集 落等	農林業 等	環境教 育等		樹林地



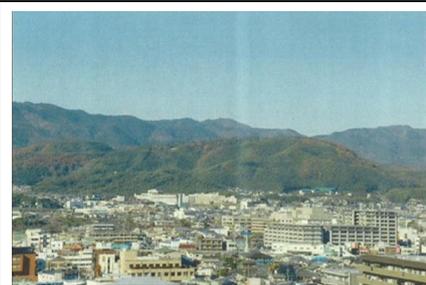
41 西山地区（京都府長岡京市）

京都、大阪の日本料理店に素材を提供する昔からの筍の名産地である大山崎町天王山からこの地区にかけて、竹林保全の活動が行われている。地権者、ボランティア団体、NPO、企業、大学、研究機関、行政（京都府・長岡京市）、森林組合で構成する「西山森林整備推進協議会」では、連携・協働により、森林整備、間伐材等の利活用方法の研究、市民への啓発運動（竹林コンサートや森林ボランティア行事等）を実施する。京都府の「モデルフォレスト運動」に基づく企業参加活動も行われている。

写真上：西山全景

写真下：整備後の放置竹林

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市 周辺	連携 組織	農林業 等	景観・ 文化		樹林地



42 毛原の棚田（京都府福知山市）

進行しつつあった農地の荒廃に対し、「毛原の棚田農業体験ツアー実行委員会」を中心として、「田舎暮らし応援団」、「大江で地酒を造る会」等様々な組織が活動し、農地の保全と都市との交流を重ねてきた。このなかから棚田オーナー制度も誕生した。また、モデルフォレスト運動では、市内工業団地内の企業2社が毛原地区と協定を結び、里山整備、つつじの森づくり活動を展開している。

写真上：朝日に輝く田植え直後の棚田

写真下：稲刈り風景

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
中山間地	NPO 企業等	農林業等			田・畑



43 綾部市域の里山（京都府綾部市）

NPO「里山ねっと・あやべ」は、行政と市民が協働で農村と都市との交流による地域の活性化を目的に立ち上げた組織である。石窯で作るパン焼き体験や、米、そば、茶といった農業体験の提供、森林保全のための森林ボランティア活動など農村と都市の交流により「綾部ファン」の獲得と、移住促進を図ってきた。宿泊事業の実施、グリーンツーリズムの普及に資する人材育成を目的とした「綾部里山交流大学」の開校など、活動の幅も広がっている。

写真上：休耕田を利用したそば栽培（そばの花）

写真下：森林ボランティアで整備した山林

（間伐、遊歩道整備、ウッドテラス設置）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市周辺	NPO 企業等	景観・文化			環境全体



44 神於山地区（大阪府岸和田市）

放置された里山の荒廃を食い止めるため、市民、ボランティア、企業、行政が協働で「神於山（こうのやま）保全活用推進協議会」を立ち上げ（神於山保全くらぶ「WOOD・木・樹」、大阪府「魚庭の森」づくり協議会、シャープ(株)、光明連合座中など）、エリアを分担して保全再生に取り組む。市主催里山ボランティア育成入門講座の開催、NPO・企業による森林の植樹、育林活動などの体験・保全活動や、学習活動として小中学生による植樹、育林活動などの場としても活用されている。

写真：空から見た神於山と周辺の集落

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
都市周辺	連携組織	動植物	景観・文化	環境教育等	樹林地



45 山野草の里（奈良県桜井市）

山野草の保存・復旧を主な目標に掲げ、NPO「山野草の里づくりの会」が行政や企業の支援を受けながら、山野の荒廃防止や荒れ地の復旧活動に取り組む。その一環として、赤い花のそばや古代米、菜の花を栽培している。また一旦は途絶えた奈良県産の酒米「露葉風（つゆばかぜ）」を復活した。地元農家は農地の提供及び農業全般に関わる。「奈良県民環境ネットワーク」、「大和高原文化の会」などの活動団体、酒造会社、県農林振興事務所、橿原市昆虫館が連携している。

写真上：赤い花が咲くそば畑

写真下：奈良の酒米「露葉風」の穂が色づく棚田

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	景観・文化		
都市 周辺	NPO 企業等				環境 全体



46 西条地区（広島県東広島市）

「西条・山と水の環境機構」が西条酒造協会（9社）による基金を運用して、ふるさと西条の山を保水力の高い山、美しい環境とする運動を提唱し、里山保全活動を支援している。事業としては、市民や広島大学などと連携し、西条の水源となっている「龍王山・憩いの森」（管理者：東広島市）を拠点に、山の手入れ作業や水辺環境の美化・観察など山と水のグラウンドワーク活動を行っている。

写真上：憩いの森公園の雑木林の手入れをする参加者

写真下：たい肥にするため除伐材をウッドチップに加工

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		景観・文化	環境教育等		
都市 周辺	連携 組織				樹林地



47 粉所の里山（香川県綾川町）

粉所（そぎしょ）東横谷での活動は、十分な管理が行き届いていない里山を一般県民に貸し出し新たな活用を推進する「里山オーナー制度」（県事業）で始まった。現在は、借主で組織したオーナーの会が自主的に活動を展開し、所有者や地域の協力を得て、新たなオーナーを募集し、より広い区域を利用・管理しており、侵入竹林の伐採、枯れ松の除去や若松の育成などに取り組んでいる。現地の経緯を良く知り、農林業に精通した関係者が活動に関わっており、会においても組織やルールが整備され、地域との強い信頼関係が築かれている。

写真上：オーナー制度で整備している里山と棚田

写真下：伐採したほだ木を活用し、キノコを栽培（植菌作業）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	環境教育等		
中山間 地	NPO 企業等				樹林地



48 阿蘇草原地域（熊本県阿蘇市）

野焼き・放牧・採草といったサイクルの中で維持されてきた阿蘇の草原を、多様な主体が参加し未来の子ども達に引き継いでいくため、「阿蘇草原再生協議会」が設立され、様々な取組が始まっている。協議会には5つの小委員会（牧野管理、生物多様性、草原環境学習、野草資源、草原観光利用）があり、様々な角度から検討や議論が行われている。野焼きに関しては、野焼き支援ボランティアによる輪地切り・輪地焼き（防火帯としての整備）や野焼きの手伝いが行われ、延べ2,000人ほどが参加している。

写真上：北外輪山の草原、遠くに阿蘇五岳と阿蘇谷の集落が見える

写真下：カラナデシコなどの野草が咲く草原



地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	景観・文化	
奥山周辺	連携組織	農林業等	動植物	景観・文化	草地

● 資源管理・利用手法の再評価と新たな利用

49 荒川高原牧場（岩手県遠野市）

中世以来、北上高地の準平原のなだらかな地形と夏季の冷涼な気候、そして天然芝を利用して放牧をするようになり、市内有数の放牧地として発展してきた（現在、和牛の放牧が主体となっているものの馬の放牧も行われている）。近代は管理体制も変化した。今日では、自然環境保全地域を定めて湿生植物の保全を図るとともに、所有者及び管理者で協議し、景観の保全と牧場としての機能修復に取り組んでいる。

写真上：信仰に支えられて発展したことを物語る「山神」の石碑
 写真下：見る機会が少なくなった馬の放牧風景、遠くに北上山系が見渡せる

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	景観・文化	
奥山周辺	行政			環境全体	



50 図師小野路歴史環境保全地域と隣接地（東京都町田市）

元の地権者を含む周辺地域住民を主体とする「町田歴環管理組合」では、都条例に基づく「図師小野路歴史環境保全地域」36.6haのうち都用地を対象に、都からの委託により農道整備、土手、水路、ため池、畦、休耕田の整備、樹林地管理、巡回などを行っている。また町田市との委託契約により隣接する「奈良ばい谷戸」30haにおいて、谷戸の復元、市民ボランティアへの環境保全型農業の技術指導と意識啓発、リーダー育成を実施している。組合では、地域伝来の谷戸の管理手法を駆使した野生動植物の生息環境保全や景観保全に取り組む。

写真上：田植え前の谷戸
 写真下：田植え後

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	景観・文化	環境教育等	
都市周辺	地元集落等			環境全体	



51 山熊田地区（新潟県村上市）

東北地方の山間部では、焼畑によって雑穀やカブなどを栽培し、跡地にスギを植え 50～100 年かけて売るという生活・生業が行われていた。山北町の山熊田では、約 50 年ぶりにこの焼畑の復活に取り組んでいる。また、5軒の家が百万円ずつ出資し、商工会も援助して「生業の里」を設立、ここを本拠地に企業組合を作り、焼畑のカブのほか、里山の資源利用の伝統的技術を活用したしな布の帯や鞆、灰汁まき、栃もちなどの製造と販売が始まった。また、都市住民等を対象とした「焼畑ツアー」を始めている。

写真上：50 年ぶりに復活した焼畑
 写真下：しな布の織り工房（「生業の里」内）

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化		
中山間地	地元集落等			田・畑	



52 こもろミズオオバコビオトープ（長野県小諸市）

長らく放棄耕作地だった場所（火山噴出物の地層が河川によって削られて出来た「田切地形」と呼ばれるこの地方特有の場所）を田んぼに戻し、無農薬、手作業で米作りを行っている。「ため池」「湧水池」「水路」「湿地」といった多様な水辺環境からなるこのビオトープは、水辺環境で生活するミズオオバコなど今となっては貴重な動植物を保全するとともに、米作り体験や自然観察会などに活用され、里地の豊かな恵みを体験できる場としても役立てられている。

写真上：田切の北東側からの風景。田植えと草刈りを行っている

写真下：観察水田での水生昆虫観察会

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		動植物	環境教育等		
都市 周辺	NPO 企業等	動植物	環境教育等		田・畑



53 高安地区（大阪府八尾市）

地元住民が半数を占める NPO が中心になり、ため池を再生し、伝統的水管理法である「池干し」を再現することにより、農業用水確保と土壌改良を同時に実現、結果としてニッポンバラタナゴの生息環境の再生に成功した。有機的な田畑利用によるため池利用度の回復に向け農業クラブを立ち上げ、さらに雑木林の下刈り、間伐等により森の保水力を高め、流域の水循環系の再生を目指す。市民、活動団体、企業、行政の協働による里地里山の環境保全活動も進んでいる。

写真上：再生したため池から見える里山。花卉栽培が行われている

写真下：ため池で泳ぐニッポンバラタナゴ

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物		
都市 周辺	NPO 企業等	農林業等	動植物		ため池 湿地



54 弘川寺歴史と文化の森（大阪府河南町）

以前は炭焼きを生業としていた持尾地区の農家が、活動団体メンバーの技術指導をしたことがきっかけで、市民参加による雑木林の保全と里山文化の継承を目的とした「里山倶楽部」が結成され（のちに NPO 法人化）、現在は、炭焼きの他に、環境教育、人材教育などにも活動内容を拡大し、「弘川寺歴史と文化の森」で地元住民・小学生などへの植栽指導をはじめ、里山の回復・保全の活動を行っている。「弘川寺歴史と文化の森ふれあい推進協議会」を通じて行政や地域と連携し「弘川千年の森づくり」を推進している。

写真上：小学生などへの植栽の指導

写真下：桜満開の弘川寺歴史と文化の森

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	景観・文化	環境教育等	
都市 周辺	NPO 企業等	農林業等	景観・文化	環境教育等	樹林地



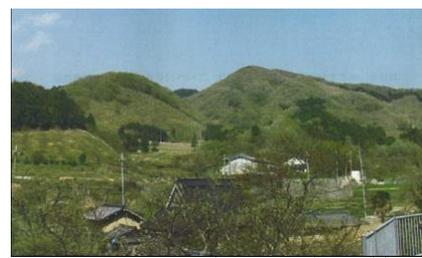
55 北摂・黒川の里山（兵庫県川西市）

菊炭生産者や森林ボランティア団体等が現在も台場クヌギ（歴史性の高い特殊な仕立て方を施したクヌギ）の輪伐により薪炭材を採集している。このため、1～10年生の林がモザイク状に配置されることで、多様な生息生育空間が生まれている。専門家が生物多様性や里山の歴史性などに関する知識を提供し里山の学習と保全の方針について指導するとともに、一庫炭生産者の指導により市民活動団体等が里山管理と炭焼きの技術を継承している。

写真上：さまざまな樹齢の林がモザイク状に分布するクヌギ林

写真下：台場クヌギと炭焼きがま跡

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物	景観・文化	
都市 周辺	NPO 企業等	農林業 等	動植物	景観・ 文化	樹林地



提供：人と自然の博物館



提供：人と自然の博物館

56 秋吉台地域（山口県美祢市）

秋吉台及び周辺の石灰岩地帯の凹地（ドリーネ）の土は、石灰岩の溶けかすがたまってできたもので肥沃で耕作に適しており、これを利用してゴボウ等の栽培が行われていた。戦後は生産性の低い秋吉台のドリーネ耕作は衰退の一途をたどり、現在ではごくわずかに減少している。秋吉台家族旅行村では村内のドリーネを利用してオーナー農園や体験農園で、無農薬で作物を栽培するドリーネ耕作が行われている。

写真上：秋吉台上で行う「春のエコツアー」の様子

写真下：秋吉台国定公園内で行う「山焼き」

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		環境教育等			
中山間 地	連携 組織	環境教育 等			草地



57 舟志の森（長崎県対馬市）

企業が所有する社有林及び休耕田約16haにおいて、ツシヤママネコをはじめとする野生生物保護と、持続可能な林業経営を目指して、地元舟志（しゅうし）区、企業、市民ボランティア団体、対馬市の4者が「舟志の森づくり推進委員会」を組織し、森林管理を実施している。人工林は適正に管理し、生物多様性を向上するとともに木材を生産するために活用し、広葉樹二次林部分は開発等をしないで良好な環境を保存する。休耕田は湿地として機能しているため、水位を管理し、多様な生物が生息できる環境として管理する。

写真上：スギ人工林を皆伐し、島内産ドングリの苗を植樹

写真下：ツシヤママネコが餌場に利用する休耕田湿地

地域区分	取組主体	主な取組目的			取組対象
		農林業等	動植物		
中山間 地	連携 組織	農林業 等	動植物		樹林地



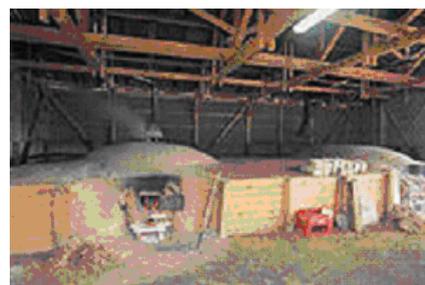
58 生出地区（岩手県陸前高田市）

陸前高田市街地から北西へ 17 キロに位置する生出（おいで）集落には、400 年以上の木炭製造の歴史があり、江戸時代には砂鉄と豊富な木炭を使った製鉄が行われていた。近代製鉄が始まると木炭の需要は減少したが、品質向上に取り組み、全国有数の技術を習得して競争を勝ち抜き、現在も高い技術を受け継いでいる。約 20 年前に「生出地区コミュニティ推進協議会」を結成した住民たちは、外部との交流を図るために木炭まつりを開催するとともに、木炭発電の技術開発等の新しい取組も進めている。

写真上：ホロタイの郷「炭の家」の体験用炭窯

写真下：大学生による林業体験の様子

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
中山間地	地元集落等	農林業等		樹林地



59 浦高百年の森（埼玉県寄居町）

埼玉県立浦和高等学校同窓会が、土地所有者と 50 年間の土地賃貸借契約を締結し（50 年後に再契約を行う）、放置された二次林と耕作放棄地において、地形等に応じて区域を分け、100 年かけて森林を再生する。①カシ林（極相林）②里山林（落葉広葉樹林）③スギ林（経済林）④ヒノキ林（経済林）⑤マツ林（経済林）。在校生といっしょに森林整備活動を行う。事業にかかる資金はすべて同窓生による寄付によって賄っているが、活動時には県が道具の貸与や技術指導等の支援を行っている。

写真上：対象地全景

写真下：里山林の植林の様子

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
都市周辺	NPO 企業等	農林業等	環境教育等	樹林地



60 安堂地区（滋賀県近江八幡市）

イノシシの獣害に悩む地域住民と NPO「おうみ木質バイオマス利用研究会」、関係機関が連携して里山再生活動を行う。耕作放棄田とそれに続く生い茂った里山林を伐採・修復し、見通しのよい緩衝地帯を設けることでイノシシの獣害を防止し、さらに黒毛和牛を放牧して里山再生、畜産振興、景観保全などの効果を発揮している。伐採樹木を利活用し、薪ストーブ材料とする試みも行われている。

写真上：獣害防止のため里山と田の間に設けた緩衝地帯で牛を放牧

写真下：官・民・学が連携して行う雑木の伐採作業の様子

地域区分	取組主体	主な取組目的		取組対象
都市周辺	NPO 企業等	農林業等	景観・文化	樹林地

